



まさに「グローバルな仕事」を扱う外務省国際機関人事センター。

外務省国際機関人事センターは、国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) や国連児童基金 (UNICEF) など、「まさにグローバル」な各機関への就職支援などを行うところ。毎日国際問題の解決に取り組む国際機関では、どんな人が働いているのか。人事センター長のお話を伺いました。

国際機関
人事センター長
佐藤 雅俊氏
が考える

グローバルパーソンとは？

緒方貞子さんのような方。国連の難民高等弁務官を
務められるなど、世界で活躍されており、またその
様子が世界のニュースで取りあげられている。

国際機関
人事センター長
佐藤 雅俊氏
が考える

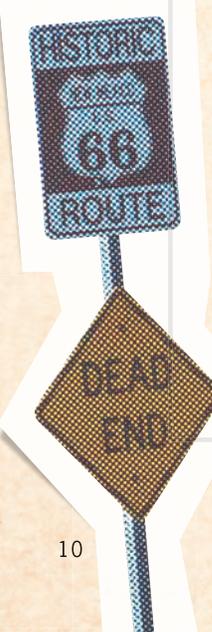
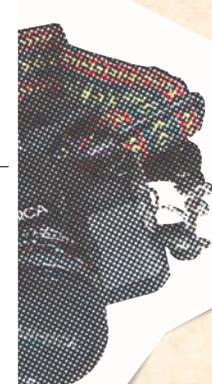
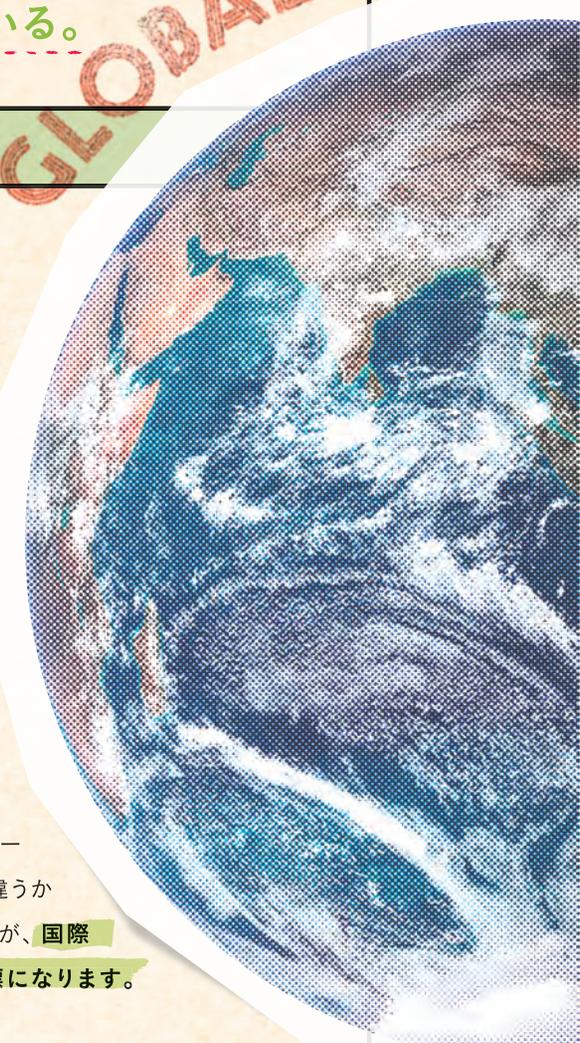
国際機関で働くグローバルパーソンとは？

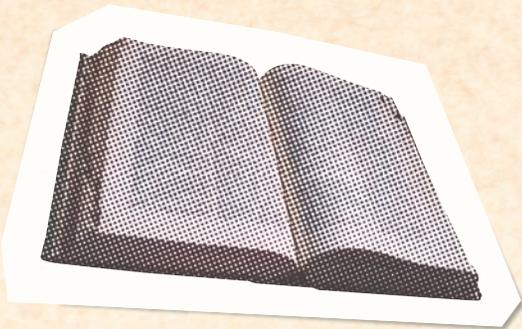
緒方さんもよくおっしゃっていたのが「熱い心にクールな頭」。日本人は一般的に勤勉で、約束したことをきちんとこなせ、チームワークを重んじる、という素質があるとされています。これは国際機関で働く人には必ず求められることであり、そういう意味では日本人は一般的に国際機関で働く素質を兼ね備えていると言えると思います。その上に、自分自身に挑戦する気概や、目的意識をはっきり持つ、ということがあれば十分に国際機関で通用する人材になれるでしょう。

慣れない国で、多様な国籍の人たちと難しい課題を解決する仕事に取り組むには、“世界”という舞台で人々の暮らしをより良くしたい、という志や強い熱意が必要です。国際機関の仕事では、開発途上国のハードな現場で仕事をしていくことも多くあります。それをやり抜くためにも、心身ともに健康であることと併せて、「この暮らしをこう変えたいんだ。この問題をこう解決したいんだ!」という強い「思い」があるかないかで大きな違いが出てくるのではないのでしょうか。企業でグローバルな活躍をするのと、国際機関で活躍するのでは、そこが決定的に違うかもしれません。企業の場合は最終的に利益をあげることが目標になりますが、国際機関では「世界の人の暮らしをよくするためという国際公益」が目標になります。
そういった意味で「意識」が大切になってくるのです。

以前、ESCAP (国連アジア太平洋経済社会委員会) の日本政府常駐副代表をしていたことがありました。任期を終える際に委員長に「日本のことだけでなく、ESCAPのことを考えて仕事をしてくれてありがとう」と言われた時に、この仕事をしていて本当によかったなと感じました。広い国際公益にちゃんと貢献できた、ということが喜びでした。そこに、国際機関で働く人のコアがあるのだと思います。

GLOBAL PERSON





外務省 総合外交政策局

国際機関人事センター長 佐藤 雅俊氏

※現在はトリニダード・トバゴ日本大使館に在籍。

各国際機関への就職支援をする
外務省の国際機関人事センター長。

<http://www.mofa-irc.go.jp/index.html>

国際機関
人事センター長
佐藤 雅俊氏
が考える

中高生のうちに何ができるでしょうか？

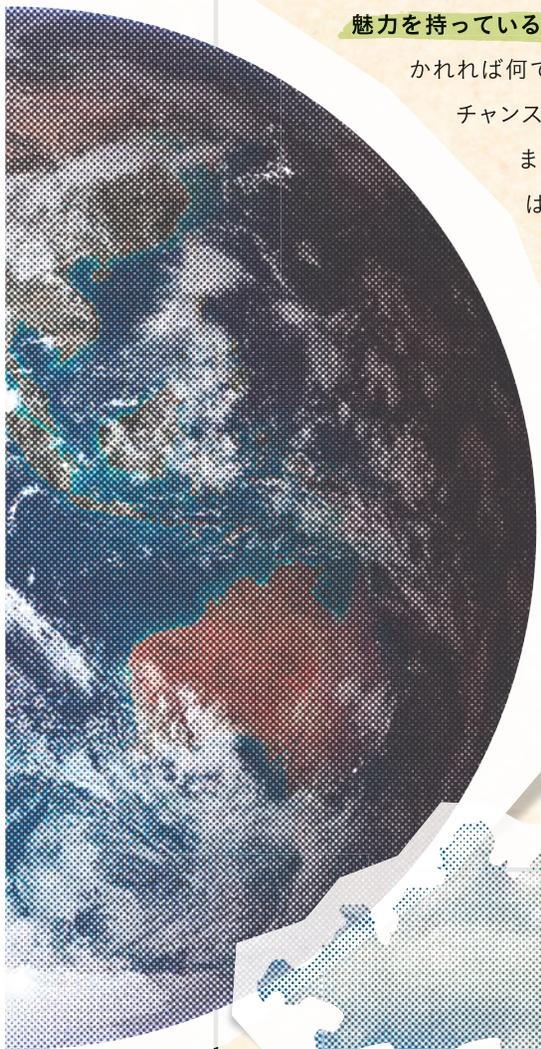
いろんなことに興味を持って、積極的に取り組むこと、幅広い教養と知識を身につけて、人間としての魅力を高めることでしょうか。専門性は大学や大学院に進んでから身につければ十分だと思います。むしろ専門性ばかり高く、あまりに頭でっかちになってしまうと重宝されないこともあります。

イニシアティブをとって行動することは尊重されますが、結局はチームで働くので、やはり人間的魅力を持っている人が仲間ができやすく、重宝されます。例えば特定のジャンルに博識で、聞かれば何でもわかる…という方が魅力になっていくと思います。そういう人には活躍するチャンスも廻ってきやすいように思います。

また、語学はコミュニケーションの前提になりますので、やっておくに越したことはないです。私は最初の赴任先がリベリアだったのですが、そこで一緒に赴任した人と毎晩BBCのラジオを聴きながらニュースについて議論をしていたことがありました。英語でのコミュニケーション力を高めるのにとっても良い訓練でした。今ではラジオだけでなく、テレビでもインターネットでも、英語をインプットできるメディアはたくさんありますよね。高校生のうちからどんどんそういったものを利用して慣れていくのは良いと思います。もうすぐ日本でオリンピックも開催されますね。それこそ、語学力を磨いたり、他国の方と関わる機会を作って色々な経験を積むチャンスですね。

また、最近はコミュニケーションが大事であると、学校も「話す」力の育成に力を入れていると思いますが、仕事となると「書く」力もかなり大事です。日々の報告書もそうですし、メールでのコミュニケーションもかなり多くなってきています。「正確に」「わかるように」「明確に」、「書く」力を伸ばしておくのはとても大切だと思います。

SON



国際機関で働くには、英語力・コミュニケーション力などの“能力”と同じくらい、“意識”が大切だということが伝わってきました。中高生のうちに、部活や習い事を含めた様々なことに没頭して人間力を磨くことが、将来「熱い心にクールな頭」を兼ね備えたグローバルパーソンになる土台作りになるかもしれません。